2011.5／No.926

「もっともっと伸ばしてあげたい」
厳しさの中に見せる真の優しさと強さ

マチノチカラ

長洲の輝く人にクローズアップ vol 10

西林和美さん

61歳　腹赤

設立から24年
腹栄中サッカー部を今日まで支える熱き指導者

PROFILE

にしばやしかずみ

高校時代サッカー部に所属していたことがきっかけで、1985年腹赤小サッカー部コーチに。87年、中学生を対象にクラブチーム「名石浜FC」を立ち上げ、監督を務める。翌年、腹栄中サッカー部コーチに就任。以来、20年以上にわたり選手を指導している。
腹赤区在住。61歳

「この場面では、この動きだろ！」

自らの動きで指示する姿、グラウンドに響き渡る力強い声。腹栄中サッカー部のコーチを務めて24回目の春を迎えた。きっかけは、腹赤小学校のコーチを引き受けたこと。2年間の指導後、中学生を対象にクラブチームを立ち上げた。初めて臨んだ地区大会で優勝、県大会にチームを導いた。翌年、腹栄中にサッカー部が誕生し、コーチに就任。歴史の礎を築いた。

ボールを蹴り、一緒に走りながら指導するスタイルは長年変わらない。その姿は、60歳を越えているとは思えないほどパワーがみなぎっている。

「サッカーはアイデア。次のプレーを決めるのは自分なんです。でも方法を知らなければ、選手も（プレーを）選択することはできない。だから基礎をしっかり教えたい」と指導への思いを語る。

西林さんのスケジュール帳の週末は、試合や練習試合でいっぱいだ。

「外で学ぶことも多い。今のプレーは、次のプレーの始まり。気付くことで、何かをつかんでほしい。そうして勝った喜びは、次につながる大きな力になるから」と常に選手の可能性を信じ、成長を願っている。

同部キャプテンの一ノ瀬弘樹くん（3年）は、「厳しいです。でも具体的な指示でわかりやすい。いつも新たな発見があります」と信頼し、練習に励んでいる。

昨年3月、有明フェリーを退職。それまでは、船員とコーチ「2足のわらじ」で指導にあたってきた。これまで4人のJリーガーを輩出。選手の中には、2世代にわたっての教え子もいる。その原動力を聞くと、「悔し涙、うれし涙…。子どもの涙はいつも美しい。これを見るとやめられない。もっともっと伸ばしてあげなきゃって。やっていてよかったと思う瞬間でもありますね」とほほ笑む。

「ホントはいつも、優しくしたいんだけどね。でも教えていると、なかなかそうできなくって」。

そう言って笑う姿に、真の優しさをのぞかせた。

発行／熊本県長洲町　編集／まちづくり課
URL http://www.town.nagasu.lg.jp/
〒869-0198 熊本県玉名郡長洲町大字長洲2766
☎0968（78）3111
■印刷／有限会社岱明印刷　※この広報紙は地域環境にやさしい植物油型インキを使用しています。